

西藏譯大寶積經の研究

——大寶積經成立考の一節——

櫻 部 文 鏡

一

隋の譯經三藏闍那崛多是北印度犍陀羅國より來た人であるが、口に常に、「于填の東南二千餘里に遮拘迦國あり、その國の東南二十餘里、嶮峻なる山中に深淨の窟あり、大集・華嚴・方等・寶積・楞伽・方廣・舍利弗・華聚・都薩羅藏・摩訶般若・八部般若・大雲經等凡そ十二部を安置す、皆十萬偈、國法相傳して防衛守護してをる」と傳へたといふ（歷代三寶紀十二大正四十九上一〇三上等）。これによれば大寶積經は少くとも六世紀末には、所謂遮拘迦國等に於て十萬偈の大部の經として既に存在してをったのである。次に唐の三藏玄奘が大般若經六百卷翻傳の功畢つた後、麟德元年正月一日、翻經の大德並に玉華寺の衆は慇懃に更に大寶積經を翻せんことを請うた。その時玄奘は、「此經の部軸は大般若と殆ど同じである、余が生涯已に窮まる、恐らくは其事を終へじ」といつて容易に着手を肯じなかつたが、固く請うて已まなかつたので、遂に梵夾を啓いて之を譯し始めた。けれども、たゞ數行を譯したの

みで梵本を收め、「此經は此土の群生と未だ縁あらず、余が氣力衰竭して辦すること能はず」と嗟歎して遂に輟めてしまつたといふ。時に玄奘六十三歳、後一ヶ月を出でずして彼は入寂したのである（慈恩傳十^{大正}五^十玄奘法師行狀二^{大正}一^九上^等）然らば玄奘が入竺將來した五百二十夾、六百五十七部の梵典の中にも六百卷の大般若に匹敵する大部の寶積經梵本があつたものと推察し得よう。

後、菩提流志の支那に來るや復その梵本を賣した。時に和帝彼に命じて玄奘の餘功を續がしめ、遂に廣く頌德を鳩め名儒を召し、舊翻の經を尋釋し、新來の夾を考校し、上代の譯にして勘同するものは即ち附し、昔より未出のものは本を按じて具さに翻譯し、遂に二十三會八十一卷は舊譯を勘同編入し、新に二十六會三十九卷を譯出、補足してこゝに四十九會一百二十卷の現存漢譯大寶積經が出来たのである。流志の功は神龍二年（西^紀七〇六）に創め、先天二年（西^紀七一三）に畢つた。

かくて唐の智昇は開元錄の別分乘藏錄中有譯有本錄のうち菩薩契經藏を單重合譯と單譯とに分ち前者を更に分類して、始めて般若・寶積・大集・華嚴・涅槃の五大部を立て、その何れにも從へ難いものを纏めて五大部外と名けた。爾來大藏聖教法寶標目、至元法寶勘同總錄、明藏・大正藏經等何れもその分類に寶積部の一を算へて居る。而しても開元錄は大寶積經の四十九會經とその異譯三十三部と合せて八十二部を寶積部といつたのであるが、大正藏經に至つては、異譯のみならず、纔かに

この寶積經の一部分に關係もしくは連絡ある如きものも皆部屬せしめて合計六十四部、開元錄の如くに大經を四十九に分てば百十二部の多きを含めてをる。縮藏でも、判然と寶積部とはいつてないが閱藏知津に従つて方等部の首め地帙に大寶積經以下五十九部(百〇七部)を連らねて大正藏經に至る過程を示してをる。

然しながらこの寶積部なるものは經典分類の形式上からいへば、甚だ偶然的なもので、聖典成立の史的方面からみても、その思想内容からいつても又教會史的に考へても何ら學的根據のあり得ないものゝやうである。

元來寶積部といへば、大寶積經と及びその各會の異譯とをのみ總括して名くべきものであらうがその大寶積經なるものが抑も特異な性質をもつたもので、般若・涅槃・法華の如き、ともかくも前後始終内容に脈絡を有つた大部經とは同列に論じ得ないものゝやうである。その特異といふのは第一には翻譯の形式から、第二に内容の上からである。第一に翻譯の形式上からといふのは前述の如くこの經は一人の翻譯でなく、曹魏西晋の世より唐朝に亘つて殆ど四百年間、康僧鑠、竺法護より菩提流志に至るまで凡そ十八人、異時別人の譯出經を編成したもので、強て例を求むれば、僧就の大方便大集經六十卷、寶貴の合部金光明經八卷の如きであるが、彼と此とは其間猶殊なる事情のものである。而して今寶積經の翻譯上のこの特殊性から更に想像を逞しくすれば、果して漢土以前に百

二十卷を内包する形に於て大寶積經の原典が存在したものがどうか一往疑へば疑へないこともないやうである。それは更に述べることゝして、この翻譯上の特殊性に就ては梁啓超氏も次の如くいつてをる。(大寶積經迦葉品梵藏漢文六種合刻序頁)

藏中諸經典傳譯的形式、惟大寶積最爲新奇、凡大部經典、本是用叢書的體例逐漸編集成、這是我們所確信的。所以此類大經、都先有許多零譯單本、或每種先後經幾次重譯、到後來得著足本的梵文、遇著一位大譯師、纔把他全部首尾完具重新譯成、華嚴般若諸譯本成立次第都是如此、寶積初期的遙譯、也不違斯例、自漢晉至魏齊、零譯單本不下數十種。到唐中宗神龍二年至先天二年菩提流志三藏纔泐成現在的百二十卷本。但他有一點極爲別致、全書共分四十九會、內中只有二十六會爲流志新譯、餘下二十三會則採用舊譯。所以這部百二十卷大寶積經、我們可借用版本學家的術語、名之爲「唐百衲本」。

第二に内容の上からといふのは、この經四十九會は各々立派に獨立經典としての内容形式を具へ各會の間には殆ど何等の思想上必然的連絡なく、その配列の順序にも決定的な意味は見出せない。或は般若部のものあり(四六會の如き)、律部のものあり(一四會)、大集部のものあり(四七會)、或は成佛の行相を説き(四・七・一二等)、淨土往生の思想あり(五・六等)、釋迦の本生と教化を述べ(一六・一七・三八等)、教理を説き(九・三五等)、律儀を示す(一・一九等)、など前後雜然として何等脈絡

の一貫するものを認め得ないやうである。かくて現形の如き大寶積經一部に總輯せられて四十九會が配列せられねばならぬ理由はないから、菩提流志の當時かくの如き形の梵語原本があつたにしても、その原本がその形を有つたのは果していつ頃からであらうか。更にこれらの四十九が一大寶積經に纏められた理由如何などと疑團は續出する。

二

そこで寶積經典の漢譯史實と、寶積經典が他經論内に於ける引用等の關係をみる必要がある。

先づ寶積經典の漢土譯出史を釋ぬれば、大寶積經としては已に前に陳べた通りであるが、大寶積經に含まれた四十九會及びその異譯についてみるならば、最も初期の後漢の朝における

無量清淨平等覺經 支婁迦讖譯 (五 會異譯)

阿閼佛國經 同 (六 會異譯)

佛遺日摩尼寶經 同 (四三會異譯)

大乘方等要慧經 安世高譯 (四一會異譯)

無量壽經 同 (五 會異譯) 缺

如幻三昧經 同 (三六會異譯) 缺

法鏡經 安玄譯 (一九會異譯)

慧上菩薩問大善權經 嚴佛調譯 (三八會異譯) 缺

摩訶衍寶嚴經 失 譯 (四三會異譯)

より、菩提流志の大經譯編以後なる

大聖文殊師利菩薩佛刹功德莊嚴經

不空譯 (一五會異譯)

三十五佛名禮懺文 同 (二四會異譯)

大乘日子王所問經 法天譯 (二九會異譯)

護國尊者所問大乘經 施護譯 (一八會異譯)

無畏授所問大乘經 同 (二八會異譯)

大方廣善巧方便經 同 (三八會異譯)

大迦葉問大寶積正法經 同 (四三會異譯)

大乘無量壽莊嚴經 法賢譯 (五會異譯)

如來不思議祕密大乘經 宋法護等譯 (三會異譯)

大乘菩薩藏正法經 同 (一二會異譯)

父子合集經 日稱等譯 (一六會異譯)

といひ、後漢失譯の中に(大正^同五五中)

摩訶衍寶嚴經 一卷

佛遺日摩尼寶經 一卷

と列し、大乘錄の下に(大正^同一一二下)

佛遺日摩尼寶經 一卷

大寶積經 一卷

摩訶衍寶嚴經 一卷

上三經同本別譯異名

といつてある。

費長房が古品(日)遺日說般若經一卷に施した細註は恐らく誤謬であらう。祐錄は支讖譯の下にはたゞ方等部古品日遺日說般若一卷今闕と出すのみであり、異出經錄の下(大正^{五十五}一四上)には明かに此經を般若經の異出としてゐるので、かゝる三種の異名を附せらるべきものではない筈である。費長房一度誤り、爲に、後の經錄多くこゝに混雜を來してゐる。

それが法經錄には大乘修多羅衆經異譯の下に(大正^{五十五}一一八中)

佛遺日摩尼寶經 一卷 後漢光
支讖譯

大寶積經 一卷

西藏譯大寶積經の研究

摩訶衍寶嚴經 一卷

右三經同本異譯とあり、仁壽錄(大正同 一五八上、中)は全く之を踏襲し、靜泰錄(大正同 一九三下)紙數を附記して序の如く、十五紙・二十一紙・二十紙と傳へてゐる。

内典錄●●に來つては支讖譯出として(大正 五十五 二二三下)

佛遺日摩尼寶經 一卷 出方等部。一名摩訶衍寶嚴經。一名大寶積經。古品遺日般若經。見祐錄。

大寶積 經 余譯此經與前略同。以光和二年初出。道安云摩尼寶經。或二卷。見舊錄及土行漢錄僧祐錄。

と變じ、後漢失譯の中には(大正同 二二五下)三寶紀と同じく

摩訶衍寶嚴經

佛遺日摩尼寶經

を列し、更に舉要轉讀錄の下に(大正同 三一九上)

大寶積 經 二十一紙 別譯失人代

右一經。三譯。與支讖佛遺日寶及摩訶衍寶嚴經同。

と稱してゐる。武周錄になると大乘重譯經目の中に、(大正同 三八一中、三八二中)

古品曰遺日說般若經 一卷 一名遺道日摩尼寶經。一名摩訶衍寶嚴經。一名大寶積經。二十五紙。

右後漢桓帝建初年沙門支樓迦識於洛陽譯。出長房錄。

佛遺日摩尼寶經 一卷十九紙

右西晋竺法護譯。出長房錄。

寶積經 一部三卷

右周武帝代三藏禪師闍那耶舍於長安四天王寺譯。出長房錄

摩訶衍寶嚴經 一卷二十紙

右長房錄云晋代譯。失三藏名

大寶積經 一卷一名大寶經。一名寶經。一名摩尼寶經。二十紙。

右内典錄云與支識佛遺日寶及摩訶衍寶嚴經同本異譯

とありて、古今譯經圖紀(大正五十五下)に示されてをる周の闍那耶舍の三卷の寶積經をも加へて、一

層や、こしくなつて來たが、見定流行入藏錄の處には(大正四六一上)

摩訶衍寶嚴經 一卷二十紙

大寶積經 一卷一名大寶經。一名寶經。一名摩尼經。二十紙。

佛遺日摩尼寶經 一卷十九紙

とある。かくて開元錄に至つては菩提流志の六寶積經譯編以後であるから、大寶積經の下に(大正

同五八六上)

第四十三普明菩薩會 一卷 失譯今附秦錄、勘同編入、第三譯

右舊譯重本、是舊單卷大寶積經、新改名普明菩薩會。云云

と擧げ、別に(大正同五八七下)

佛遺日摩尼寶經 一卷亦名古品日遺日說般若經 後漢月支三藏支婁迦識譯第一

摩訶衍寶嚴經 一卷一名大迦葉品 晋代譯失三藏名舊在後漢錄。今且依舊。第二譯

右二經與寶積第四十三普明菩薩會同本異譯

と記し、入藏錄に於て佛遺日摩尼寶經に一名大寶積經、一名摩訶衍寶嚴經、一十六紙と加へ、摩訶衍寶嚴經には二十紙と注してある。

最後に至元錄●●に於て新しく宋法天譯妙法聖念處經八卷に注して(昭和法寶總目錄第二卷二〇二下)此經與寶積經第四十三普明菩薩會同本といつてあるが、これはいふまでもなく至元錄者の何らかの謬記か錯誤かであらう。

以上經錄の傳ふるところ經名、譯者名等にいさゝか紛亂する處あれど、恐らく遺日說般若經を今の同本、又は異名とみるは前述の如く誤謬であるだらうし、闍那耶舍譯三卷の寶積經は唐代既に其本を失ひ、開元錄には(大正五十五、六二、七下)右一經雖云寶積既無本可校、不知與何會同本。且記於末といつてをり、三卷といふ卷數が他の何れも一卷なるに比し異様に感せられるけれどもこれは後出の施護

譯の卷數と併せ考へれば經文發展とみて不思議ではなく、この普明菩薩會の同本異譯であつたに相違なからう。してみれば第四十三會は出三藏記集以來の寶積、摩訶衍寶嚴、遺日摩尼寶の三本及び開元以後の施護譯佛說大迦葉問大寶積正法經五卷と併せて四つの同本異譯が現存し、他に寶積經と名づける三卷の異譯も存したらしいことになり、ともかくこの會には寶積なる題名を負うてゐたことは疑ふべくもない。而してこの會には別に釋論四卷あり、その名を大寶積經論といふが、その實はこの第四十三會のみの釋述である。

此論の漢本は元魏菩提流支の譯出で著者の名を傳へて居らないが、これに全く對同する西藏本(丹殊爾 J. 函 10. 5. 244a 1-350a) によれば安慧論師の撰述である。河口慧海氏は「西藏傳唯識三十頌」の序説、安慧の傳下にこの西藏疏本に對して漢譯なしといはれたのは穿鑿の不足である。鋼和泰(Saai Holstein)男の迦葉品序、南條目錄補正索引等は正しく藏漢の一致を認めてゐる。

以上寶積部經典の漢土譯出の史實を研究して知り得たことは結局次の三項に歸する。

一、大寶積經百二十卷にも相當する梵本の存在については、(1)隋代に遮拘迦國に於て十萬偈の寶積經が存在したといふ闍那耶舎の口傳、(2)唐の玄奘が譯出したへなかつたけれども賣し歸つてをうたらしいこと、(3)唐の菩提流志が梵本を將來し、玄奘の遺業を繼いで、前代傳譯の所謂適合別翻を收容しつゝ百二十卷に譯編し終つた事實とがある。

二、然し現在の大本大寶積經の各會經は各々獨立に存在しうる内容のものであり、また事實その

中の二・七・一一・二〇・二二・三二・三四・四〇・四五の九會を除いては皆大寶積經中の一會といふやうな形迹なしに全く獨立的に而も後漢の古代より流志後の宋代に至る迄陸續譯出せられてをる。

三、たゞ一つ第四十三會が古くから寶積經なる名を負うてをるが、これは大寶積經中の一會がたまく寶積と名けられ又は寶積と異名せられたのではなくして、寧ろこの一會こそ始めからこれ一會だけで寶積經なる名をもつてゐたのである。極言すれば、或時代まで寶積經とは元來この一會のみをさしたものであらう。釋論の題名がそれを暗示してゐるやうである。而して大寶積經中の他會の釋論、即ち四十一會に對する彌勒菩薩所問經論、四十七會の寶髻經四法憂波提舍、五會の無量壽經優波提舍等も皆この推想を邪魔するものではない。

さて次に吾人は寶積經の他經論に於ける引用が如何なつてをるかを調査せねばならぬが、この研究は實の處自分には十分な用意がないのである。しかし、これ丈のことはいへるやうである。

一、大寶積經に編入されてをる諸會、たとへば勝鬘・無量壽・菩薩藏・父子合集・無盡慧菩薩等が他經論内に引用されたる場合は常に個々の題名で呼ばれてをつて、寶積なる名義を冠せられてをらな
い。

二、スタールホルスタイン男爵の研究に従へば、少くとも大乘集菩薩學論及び大乘莊嚴經論に寶積經として引くものは何れも第四十三會の文であるから、この場合の寶積經とは決して四十九會も

ある大經を指すのではない。

自分の挟い探索の中では大乘寶要義論に引く凡そ五回の寶積經はさうも第四十三會の文ではないやうである。十分に研究すれば或はこれは反證になるかも知れないが、この論は餘程後期のものであるからその點を考慮に入れておかねばならぬ。

三

漢譯大寶積經の研究は自然に今や吾人を駈つて、その梵本及び西藏譯の調査に進ましめる。寶積經典中梵本の現存するものは次の如くである。

第 5 會 Sukhāvati-vyūha (Larger) (南條博士校訂)

第 18 會 Rāṣṭrapālāpariṣcā (フイノー校刊)

第 43 會 Kāśyapaparivāta (スタールホルスタイン校刊)

第 45 會 Ratnarāṣi-sūtra (但斷片、トーマス校訂)

第 46 會 Saptasātikaprajñāparimitā

次に梵本集菩薩學論及び大乘莊嚴經論中に引用せられてをるものを拾ひ上げると、

第 9 會 Daśadharmaka *tanūkāra*

第 12 會 Boḥisatvapiṭaka 第 16 會 Pitaṅgīrasamāgama

第 15 會 Mañjuśrī-buddhākṣetraṅgaṅgavyūhā 第 18 會 Rāṣṭrapālāpariṣcā

第 19 會	Uṅgarapariprocchā	第 38 會	Upāyakaṅśālyā
第 24 會	Upālipariprocchā	第 43 會	Ratnakṛtā
第 25 會	Adhyāśayasaṅcodana	第 44 會	Ratnarāśi
第 28 會	Viradattapariprocchā	第 45 會	Aksayamati
第 29 會	Udāyanavatsarājapariprocchā	第 47 會	Ratnacūḍā
第 37 會	Simhapariprocchā	第 48 會	Srimahāsimhanāda

以上の中、別行梵本は第四三、四五兩會は結尾を失つてゐるので具々な梵語題名を検知し得ないが、その他の三本をみるに何れも寶積經中の一會なる標示は全くない。集菩薩學論中引用のものに就ては前既に漢譯本の下で述べた如く何れも各々特有の經題で呼ばれ、Ratnakṛtā と呼ばれるものは第四十三會を指すものである。

四

然らば大寶積の西藏本はさうであるか。佛蘭西のラルー女史 (Marcelle Lalou) が曩に Journal Asiatique (Octobre-Décembre 1927. pp. 233—259) に於て La Version Tibétaine du Ratnakṛtā と題して西藏譯大寶積經に關し種々なる報告をして居られるが、自分は今別に用意したる所を以て、女史の研究も參照しつつ、以下繁瑣ながら之を敘述するであらう。

現存西藏本大寶積經は漢譯本と同じく四十九經より成立し、總名を聖大寶積法門 *Skt. Ārya Ma-hārānakūṭa-dharmaparyāya Tib. lhpags-pa dkon-mchog brtsegs-pa chen-pohi Ch s-kyi-rnam-grans* といい、添へて十萬章 *Skt. Satasahasrikagrantha Tib. lehu ston-phrag-brgya-pa* と稱し所謂十萬偈の大本なることを表はしてをる。而して各經の尾、希には首にも大寶積經中の第何會(品)何々經と標記してをるのである。先づ流志勘編の諸會の順を追つて現存西藏本の實際を紹介してゆかう。

第一

漢、三律儀會 二本(曇無讖、菩提流志)

藏、三律儀說示品といふ大乘經

Skt. Trisambhara-nirdeśa-parivarta-nāma-mahā-yāna-sūtra

Tib. sdom-pa gsum bstan-pa'i-lehu shes-bya-

ba theg-pa chen-pohi mdo.

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ces-sde

九〇〇首盧迦、三卷。

漢の流志譯によく對同する。

第二

漢、無邊莊嚴會 單本(菩提流志)

藏、聖、無邊門清淨說示といふ大乘經

Skt. Ārya Anantamukha-pariśodhana-nirdeśa-parivarta-n.n.s.

Tib. lhpags-pa sgo mthah-yas-pa rnam-par-

sbyoi-ba bstan-pa.....

譯者 Surendrabodhi; dpal-brtsegs-raksita 但し

ナルタン版は失譯人名。一二〇〇首盧迦、四卷

漢譯によく對同する。

第三

漢、密迹金剛力士會 二本(竺法護、法護)

藏、聖、如來不思議祕密說示といふ大乘經

Skt. Ārya Tathāgatācintya-guhyā-nirdeśa-n-m.s.

Tib. hphags-pa de-bshin-gcēgs-pahi gsan-ba

bsam-gyis-mikhyab-pa bstan-pa.....

譯者 Jinamitra, Dānaśīla, Muni-varna; Ye-ges-

sde

三〇〇〇首盧迦、一〇卷。(或は傳ふ、三五〇〇

首盧迦、一一卷と二〇〇首盧迦) 二五品。

宋の法護譯本によく合する。

第四

漢、淨居天子會 單本(竺法護)

藏、聖、夢說示といふ大乘經

Skt. Ārya Svapna-nirdeśa-n-m.s.

Tib. hphags-pa rmi-lam bstan-pa.....

譯者 Prañāvarna, Ye-ges-sde 北京版は失譯人

名、ブリゲ版は目錄にのみ此名を出す。

九〇〇首盧迦、三卷。(或は傳ふ、一〇〇〇首盧

迦、三卷と一〇〇首盧迦)

法護譯に至元錄は阿唎亞穠怛拏儼哩底沙拏麻と

梵題を與へてある。穠怛拏は至元錄の音寫例に

よれば *sodhana* と還元すべき様であるからこの

三字は何かの誤と思はれる。

第五

漢、無量壽如來會 五本(支謙・支謙・康僧鎧・流

志・法賢)

藏、聖、無量光莊嚴といふ大乘經 (尾題は無量光如

德莊嚴
品第五)

Skt. Ārya Amitābhavyūha-n-m.s.

Tib. hphags-pa hod-dpag-med-kyi bkod-pa.....

譯者 北京版 伯林寫本は Klüh'i rgyal-mthan
ナルタン版、デリゲ版は Jinamitra, Dānāśīla,

Ye-ces-sde やする。

九〇〇首盧迦、三卷。

漢譯との本とも出沒前後ありてよく一致しない
けれども現存梵本によく合致する。

第六

漢、不動如來會 二本(支婁迦讖、流志)

藏、聖、不動如來莊嚴といふ大乘經

Skt. Ārya Akṣobhyaśatathāgataśārya-vyūha-n.m.

s.

Tib. hphags-pa de-bshin-gcegs-pa mi-ñkhrugs-

pahi bkod-pa.....

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi, Ye-ces-sde

西藏譯大寶積經の研究

一五四〇首盧迦、五卷と四〇首盧迦、六品

大體に於てよく漢譯と一致するが最後の第五卷
は兩漢譯と互に交錯不同がある。

第七

漢、被甲莊嚴會 單本(流志)

藏、聖、被甲莊嚴説示といふ大乘經

Skt. Ārya Vajra-vyūha-nirdēśa-n.m.s.

Tib. hphags-pa go-chal'i bkod-pa bstan-pa

譯者 hgos の人 Chos-grub (法成)が漢本より

譯出すとナルタン版及びデリゲ版目錄に記し

てある。北京版はこの譯記なし。

一八〇〇首盧迦、六卷、全く流志譯被甲莊嚴會

と一致する。ナルタン、デリゲ兩版のいふ如く

法成が支那譯から重翻したものに相違ない。

第八

漢、法界體性無分別會 單本(曼陀羅仙)

藏、聖、法界體性無分別說示といふ大乘經

漢譯兩本の中では佛陀扇多譯の大寶積本の方に
よく合する。

Sk't. Ārya Dharmadhātuprakṛti-asambheda-

nirdēśa-n.m.s.

漢、文殊師利普門會 二本(竺法護、流志)

藏、聖、普門の品といふ大乘經

第一〇

Tib. hphags-pa chos-kyi-dbyñis-kyi rai-bshin

diyer-med-par bstan-pa...

Sk't. Ārya Samantamukha-purivarta-n.m.s.

Tib. hphags-pa kun-nas sgoñi leñu.....

譯者 失名 (但しネリケ版にみれば Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ge-s-sde)

六五〇首盧迦、二卷より五〇首盧迦。

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ge-s-sde

第九

二六〇首盧迦、一卷。

漢、大乘十法會 二本(僧伽婆羅、佛陀扇多)

藏、聖、十法といふ大乘經。

題號は法護譯の普門品經といふによく合するが

Sk't. Ārya Daśadharmaka-n.m.s.

内容は流志の寶積本と合し法護譯とも餘り徑庭
があるわけではない。

Tib. hphags-pa chos bcu-pa...

第一一

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ge-s-sde

漢、出現光明會 單本(流志)

五〇〇首盧迦(或は云ふ) 二卷。

藏、聖、光明普放說示といふ大乘經

Skł. Ārya Rāśmi-saṃanta-mukta-nirdeśa-n.m.s.

(ナルタン版は Ārya prābhasādhānāmamahā-yānasūtra)

Tib. hphags-pa hod-zer kun-tu bk'ye-ba bstan-pa

……(ナルタン版首題及びダンカルマ目錄は

hod-zer bsgrub-pa)

譯者 失名。

一五〇〇首盧迦、五卷。

菩提流志の漢譯に全く吻合する。至元錄が流志譯に與へた梵題、阿囉室彌尼訶囉喪吉蘭帝の後半は何と還元すべきか、南條錄は Rāśminihāra-saṅgirathi (of saṅgiti?) とせられたが、今の藏傳の二つ何れとも合致しないやうである。

第二二

漢、菩薩藏會 二本(玄奘、法護等)

藏、聖、菩薩藏といふ大乘經

西藏譯大寶積經の研究

Skł. Ārya Bodhis utva-pīṭaka-n.m.s.

Tib. hphags-pa byan-chub sems-dpalji sde-snod...

譯者 Surendrabodhi, Śiendrabodhi, Dharmatāśīla

六〇〇〇首盧迦、二〇卷、一一品。

漢の兩譯とよく合する。

第二三

漢、佛爲阿難說處胎會 二本(竺法護、流志)

藏、聖、具壽難陀入胎說示といふ大乘經

Skł. Ārya Āyusmannandagarbhāvākraṅti-nirdeśa

Tib. tshe-dan-ldan-pa dgah-bo mñal-du hjug-pa

bstan-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poñi mdo

譯者 法成が支那本より譯す。但しこの記事北

京版及びデリゲ版にはない。

三〇〇首盧迦、一卷。

此經北京版は梵藏題を并舉し譯人の名を失して

ゐるが、ナルタン版によれば梵語題名なく、かの法成が支那本より譯出したものだといつてを。そして本文を比較すれば全く流志譯の寶積會本と同一である。hdus-pa bou-gsum-pa (第十三會)と會の字を用ゐてゐるのもその所以であらう。北京版に梵題を出してあつてもこれは後世少しく梵語を辨へた西藏學者が北京版校訂の際或はその以前位に作爲挿入したものに相違ない。この藏譯に於て一つ奇怪なのは流志譯に於て題號にも本文にも對告衆を阿難とせるに拘らず、西藏はすべて dgah-do (難陀)とせることである。

猶漢の兩本に對し至元錄は何れも蕃本闕といつてをる。

第一四

漢、佛說入胎藏會 單本(義淨)
藏、聖、難陀處胎說示といふ大乘經
Sk. Arya Nandigarbhāvaktānti-nirdēśa
Tib. hphags-pa dgah-do mhal-na gnas-pa bstan-
pa shes-dya-pa theg-pa chen-pohi mdo.
譯者 失名。
三卷、ダンカルマ目録には六〇〇首盧迦、二卷といふ。
義淨譯によく合致する、義淨譯に至元錄は蕃本闕といふ。北京版の尾題は誤つて第十三會と同じことを記入し、ナルタン版は梵題なく、首題は bcun-mohu dgah-ba に作り(北京版附屬西藏文目録も bcun-mihu dgah-do に作る)尾題は、
mhal-na gnas-par bstan-pa としてゐる。

第一五

漢、文殊師利授記會 三本（竺法護・實叉難陀・不空）

藏、聖、文殊師利佛刹功德莊嚴といふ大乘經

Skt. Ārya Mañjuśrī-buddhākṣetra-guṇa-vyūha-

n.m.s.

Tib. lphags-pa h'iam-dpal-gyi saṅs-rgyas-kyi

shin-gi yon-tan bkod-pa...

譯者 Silendrabodhi, Jinamitra; Ye-ces-sde

一三四〇（或はいふ）首盧迦、四卷。

漢譯は二本共至元錄に蕃本闕といつてゐるが、

（これについては下の第四六會の下参照）今の蕃本は不空譯實叉難陀譯

に最もよく合し、竺法護譯にも大途合致する。

第一六

漢、菩薩見實會 二本（那連提耶舍、日稱）

藏、父子合會といふ大乘經

Skt. Ārya Pita-putra-samāgama-n.m.s.

Tib. lphags-pa yab-dan sras mjal-ba.....

譯者 Jinamitra, Dānaśīla, Ye-ces-sde ナ・テ

兩版は更に Silendrabodhi を加へしめる。

四五〇〇首盧迦、一五卷、二十七品。

漢の兩譯によく一致する。

第一七

漢、富樓那會 單本（羅什）

藏、聖、富樓那所問といふ大乘經。

Skt. Ārya Purna-paripicchā-n.m.s.

Tib. lphags-pa gah-pos shus-pa.....

譯者 失名。

一八〇〇首盧迦、六卷、八品。

羅什譯と全く吻合する。藏傳にその記事はない

が、恐らく什譯からの重翻であらう。北京版に

尾題なし。この第十七と次の第十八と兩本が北京版及び伯林寫本では順序が逆になつてゐる。

第一八

漢、護國菩薩會 二本(闍那崛多・施護)

藏、聖、護國所問といふ大乘經

Skt. Arya Rāṣṭrapāla-paripicchā-n.ms

Tib. hphags-pa yul-ñkhor skyoñ-gis shus-pa.....

譯者 Jinamitra, Dānaśīla, Munivarma; Ye-ces-

sde

一〇〇〇首盧迦、三卷、二品

この經は梵本現存する。藏譯は梵本と完全に對同し、兩漢譯にもよく合するが施護譯によりも寧ろ闍那崛多本に親しいものである。

第一九

漢、郁伽長者會 三本(安玄・竺法護・康僧鎧)

藏、郁伽長者所問といふ大乘經

Skt. Arya Gṛhāpati-ugra-paripicchā-n.ms.

Tib. hphags-pa khriñ-bdag drag-gul-can-gyis

shus-pa.....

譯者 Surendrabodhi; Ye-ces-sde

九〇〇首盧迦(或は七五〇)ノ三卷。

漢譯三本の中では康僧鎧譯に最もよく一致する

第二〇

漢、無盡伏藏會 單本(流志)

藏、聖、電得所問といふ大乘經

Skt. Arya Vidyutpāpta-paripicchā-n.ms.

Tib. hphags-pa klog-thob-kyis shus-pa.....

譯者 失名。

六〇〇首盧迦、二卷。

尾題はやはり無盡伏藏說示 (mi-zad-pa) sfer

bstan-pa)とあり第二十會 (hdus-pa)と記してあ

る。流志譯と吻合するが、至元錄には蕃本闕といふ。ナルタン版には梵題なし。

第二一

漢、授幻師跋陀羅記會 二本(益法護、流志)
藏、聖、幻師賢授記といふ大乘經

SkT. Ārya Bhadrāmāyākara-vyākaraṇa-n.m.s.

Tib. hphags-pa sgyu-ma mkhan bzani-po luh-

bstan-pa.....

譯者 Jinanitra, Vajravarma (Prajñāvarma);

Ye-ḡes-sde

四三〇首盧迦。

流志譯に全く對同する。流志譯至元錄梵題に巴

喇囉麻牙哥哩とある巴喇囉 (Vajra) は拔怛囉の誤であらう。

第二二

漢、大神變會 單本(流志)
藏、聖、大神變說示といふ大乘經

SkT. Ārya Mahāprātihārya-nirdēśa-n.m.s.

Tib. hphags-pa tsho-hphrul chen-po bstan-pa...

譯者 Jinanitra, Surendrabodhi, Prajñāvarma;

Ye-ḡes-sde

九〇〇首盧迦、三卷。

尾題は商主天子所問品 (lhahi-bu de-l-dpon-gyis

shus-pa) とある。梵題中 nirdēśa をナルタン版

は upadeśa に作り、流志譯の至元錄梵題に麻訶

鉢囉帝訶囉嗚拔滴沙とあるに相應する。

第二三

漢、摩訶迦葉會 單本(月婆首那)
藏、聖、慈氏大獅子吼といふ大乘經

Skt. Ārya Maitreya-mahāśīhanāda-n.m.s.

Tib. lphags-pa hdul-ba rnam-par-gtan-la-dbat-

Tib. lphags-pa byams-pa'i sei-ge'hi sgra chen-

pa ne-bar-lkhor-gyis shus-pa.....

po.....

譯者 Jinamitra, Prajñāvarma, Surendrabodhi;

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi, Prajñāvarma;

Ye-ces-sde

Ye-ces-sde

六〇〇首盧迦、二卷。

一一〇〇首盧迦、四卷。

漢の流志及び失譯の兩本によく合する。不空譯

此經の藏傳題號は經の内容と關係なく奇妙であるが、内容は月婆首那譯と一致する。至元錄に

第二五

は梵題を麻訶迦葉毘 (Mahākāśyapa) or Mahākāśy-

漢、發勝志樂會 二本(闍那崛多、流志)

apa?) と擧げてあるがこの典據は何か知らん。

藏、聖、勝意勸發といふ大乘經

第二四

Skt. Ārya Adhyāsaya-saṃcodana-n.m.s.

漢、優波離會 三本(東晋失譯・流志、不空)

Tib. lphags-pa ltag-pa'i bsam-pa bskul-pa.....

藏、聖、律決定優波離所問といふ大乘經

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ces-sde

Skt. Ārya Vinaya-viniścaya-ṅpāli-pariprocchā-n.

六〇〇首盧迦、二卷。

m.s.

漢譯兩本によく一致する。

第二六

漢、善臂菩薩會 單本(羅什)

藏、聖、善臂所問といふ大乘經

Skt. A ya Subāhu-paripicchā-n.m.s.

Tib. lphags-pa lag-bzais-kyis shus-pa.....

譯者 Dānaśīla, Jinamitra; Ye-ḡes-sde

七〇八首盧迦、一卷。

第二七

漢、善順菩薩會 三本(白延・支施倫・流志)

藏、聖、須賴所問といふ大乘經

Skt. Ārya Śūrata-paripicchā-n.m.s.

Tib. lphags-pa des-pas shus-pa.....

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ḡes-sde

三〇〇首盧迦、一卷。

漢譯三本中支施倫譯に最も近く、流志譯寶積會

西藏譯大寶積經の研究

本に最も對同し難い。

第二八

漢、勤授長者會 三本(白法祖・流志・施護)

藏、聖、勇施長者所問といふ大乘經

Skt. Ārya Viradatta-gṛhapati-paripicchi-n.m.s.

Tib. lphags-pa khyim-bdag dpas-byin-gyis shus-

pa.....

譯者 Jinamitra, Dānaśīla; Ye-ḡes-sde

三〇〇首盧迦、一卷。

漢の三本中では施護譯に最もよく對同する。

第二九

漢、優陀延王會 三本(法炬・流志・法天)

藏、聖、プトサ王優陀延所問といふ品

Skt. Ārya Udayana-a-vatsarājā-paripicchā-māma-

parivarta

Tib. hphags-pa bad-saṅi rgyal-po hchar-byed-

kyis shus-pa shes-bya-bahi leḥu

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ge-s-sde

二〇〇首盧迦。

法天・流志・法炬の順序で對同する。至元錄梵題中、拏麻巴哩哇哩恒八哩巴哩赤は明かに八哩巴哩赤拏麻巴哩哇哩恒の顛倒である。

第三〇

漢、妙慧童女會 四本(竺法護・羅什・流支・流志)藏、聖、妙慧童女所問といふ大乘經

Skt. Ārya Sumati-dārikā-paripicḥā-n.m.s.

Tib. hphags-pa bu-mo blo-gros-bzau-mos shus-pa

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ge-s-sde

二〇〇首盧迦。

流志譯に最も親しく合する。菩提流支譯須摩提

經といふは宋元明三本になく麗本のみにあるが内容は全く流志譯寶積所收本と同様のもので別行の際題號譯人名を異にしたのみである。開元錄に流志先譯妙慧童女經、本在東都尋之未獲とあるものこれか。此經藏譯梵題北京版もナルタン版も、*paripicḥā* の *pari* (デ版は *prati*) を脱してをるが、それは至元錄が法護譯及び流志譯の梵題に蘇麻帝答哩哥(或は須麻提答哩葛) 巴哩赤として同じく八哩を脱してをるのと一致する。

第三一

漢、恒河上優婆夷會 單本(流志)

藏、聖、恒河上所問といふ大乘經

Skt. Ārya Gaṅgotāra-paripicḥā-n.m.s.

Tib. hphags-pa gaṅ-gāhi mchog-gis shus-pa……

譯者 Jinamitra, Dānaśīla; Ye-ge-s-sde

八〇首盧迦(或はらふ、一一〇首盧迦)

第三二

漢、無畏德菩薩會 二本(竺法護、佛陀扇多)

藏、聖、無憂施授記といふ大乘經

Skt. Arya Asokadatta-vyākaraṇa-n.m.s.

Tib. hphags-pa mya-nan-med-kyis-byin-pa luh-

bstan-pa.....

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ge-s-sde

三〇〇首盧迦、一卷。

漢譯とは扇多の寶積所收本よりも竺法護譯の方

によく一致する。

第三三

漢、無垢施菩薩應辯會 二本(竺法護・聶道真・

般若流支)

藏、聖、無垢施所問といふ大乘經

Skt. Arya Vimaladatta-paripicchā-n.m.s.

Tib. hphags-pa dri-na-med-kyis-byin-pas shus-pa

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ge-s-sde

四五〇首盧迦、二卷。

漢譯二本中では寶積所收の聶道真譯によりも瞿

曇般若流支の譯本に最もよく對同する。

第三四

漢、功德寶華敷菩薩會 單本(流志)

藏、聖、功德寶華敷所問といふ大乘經

Skt. Arya Guṇaratnasankusumita-paripicchā-n.

m.s.

Tib. hphags-pa yon-ta-n-rin-chen-me-tog-kuun-tu-

rgyas-pas shus-pa.....

譯者 Jin amitra, Prajñāvarma; Ye-ge-s-sde

一四〇首盧迦。

此經は蕃本に別に異譯本あり北京版甘殊爾第九三八號即ち諸經部 二〇 函第六に收めてある。

第三五

漢、善徳天子會 二本(何れも流志譯)

藏、聖、不可思議佛國説示といふ大乘經

Skt. Ārya Acintyabuddhaviṣaya-niddeśa-n.m.s.

Tib. hphags-pa Sans-rgyas-kyi yul bsam-gyis-

mi-khyab-pa bstan-pa.....

譯者 Jinamitra, Dānaśīla; Yes-ces-sde ナ・テ兩

版は Muni varma を加ふ

六〇〇首盧迦、二卷。

第三六

漢、善任意天子會 三本(竺法護・達摩笈多・般

若流支)

藏、聖、善任意天子所問といふ大乘經

Skt. Ārya. Sūhītamati-devayānu tra-paripicchā-n.

m.s.

Ti. hphags pa lhahi-bu blo-gros-rab-gnas-kyis

shus-pa.....

譯者 Kluñi-rgyal-mtshan ナルタン版によれば

Surendrabodhi, Prajñāvarma; Ye-ces-sde

一三〇〇首盧迦、四卷。

漢譯との對同順は般若流支、達摩笈多(寶積所

收)竺法護の順序である。

第三七

漢、阿闍世王子會 三本(竺法護・西晋失譯・流

志)

藏、聖、獅子所問といふ大乘經

Skt. Ārya Sīṃha-paripicchā-n.m.s.

Tib. lñphags-pa sen-ges shus-pa.....

譯者 *Dānaśīla, Munivarma; Ye-ces-sde*

六〇首盧迦。

藏譯は全文偈頌、流志譯寶積所收本は前半のみ偈、法護譯と失譯との二本は互に同系で全文長行、何れも原本は西藏本の原本と同一ではないやうである。

第三八

漢、大乗方便會 三本(竺法護・竺難提・施護)

藏、聖、一切佛大密方便慧上菩薩所問品といふ

大乘經

Skt. *Ārya Sarvabuddha-mahārahasyopāya-*

kausalāya-jñānottara-bodhisatva-pariprechā-

parivarta-n.m.s.

Tib. *hphags-pa saus-rygas thams-cad-kyi gsan*

chen thabs-la mkhas-pa byan-ohub-sens-dpai

ye-ces-dam-pas shus-paḥ leḥu.....

譯者 *Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ces-sde* 但

し北京版は失譯人名。デ版は別人。

一二一三首盧迦、四卷。

漢譯三本は何れも吻合ではないが、就中竺難提譯寶積所收本に最も近い。この蕃本には別に異本あり、即ち北京版第九二七號(諸經部)Su函

第一九)であるが、それは施護譯に近いもので

あつて、*Skt.* *Upāyakausalāya Tib.* *Thabs-mkhas-*

pa を題し、*Sikṣāsamuccaya* 所引の經名に一致

する。至元錄の梵題は阿喇亞薩哩哇咄但阿囉訶

斯亞烏拔野孤沙囉牙文名因亞拏烏怛囉菩提薩埵

八哩巴哩赤とあり今と比較すれば *mahārahasya*

の *mahā* に當る字なければ、これはナルタン版

にもないから寧ろそれに合致し、文名因亞拏を

ñānottara と讀むいと少しく難る所ではあるがともかく至元録は第九二七號の本ではなく今の本に據つてをることは疑ない。

第三九

漢、賢護長者會 二本(闍那崛多、地婆訶羅)
藏、聖、賢護長者所問といふ大乘經

Skt. Ārya Bhadrāpāla-śreṣṭhi-pariṣyochā-n.m.s.

Tib. lphags-pa tshon-dpon bzani-skyon-gis shus pa.....

譯者 Jinanitra, Surendrabodhi ; Ye-ges-sde
六〇〇首盧迦、二卷。

第四〇

漢、淨信童女會 單本(流志)
藏、聖、淨信童女所問といふ大乘經

Skt. Ārya Dārikā-vimalaśradha-pariṣyochā-n.

m.s.
Tib. lphags-pa bu-mo nman-par-dag-dad-pas shus-pa.....

譯者 北京デリゲ兩版は失名。ナルタン版によれば法成が漢本から譯出したといふ。
一五〇首盧迦。

北京デリゲ兩版には梵題あれどナルタン版及び伯林寫本には梵題なく、ナルタン版には法成が支那本から譯したといひ、本文を對檢するに全く流志譯に一致するから、この西藏本は流志本重譯なること疑ない。至元録は流志譯に對して蕃本闕といふ。

第四一

漢、彌勒菩薩問八法會 二本(安世高・菩提留支)
藏、聖、彌勒所問といふ大乘經(尾題は彌勒所

問入法といふ品

に合致し、漢の安世高譯は抄譯のみ。

Skł. Arya Maitreya-paripicchā-n.m. s. (ナ版は

第四二

°paripicchā-dharma-aṣṭa-n.m.s. 八版は °aṣṭa-

漢、彌勒菩薩所問會 二本(竺法護、菩提流志)

dh aṣṭaparipicchā-n.m.s.)

藏、聖、彌勒所問品といふ大乘經

Tib. lphags-pa byams-pas shus-pa..... (尾題は

Skł. Arya Maitreya-paripicchā-parivarta-n.m.s.

byams-pas shus-pa chos bryad-pa shes-bya-

Tib. lphags-pa byams-pas shu s-paḥi leḥu.....

baḥi leḥu)

譯者 Jinamitra, Surendrabodhi; Ye-ge-s-sde 但

譯者 Jinamitra, Dānaśīla; Ye-ge-s-sde 但し北京

し北京版は失名。

版は失譯人名

三二〇首盧迦。

八三首盧迦、(或はいふ
三〇〇首)

漢譯兩本何れとも吻合しないが、どちらかとい

西藏藏經は北京、ナルタン、デリグ諸版、伯林

へば法證譯に親しいやうである。

寫本、ダンカルマ目錄等皆この四一及び四二を

第四三

逆置してある。本文は元魏の菩提留支譯寶積所

漢、普明菩薩會 四本(支識、晋失譯、三秦失譯、

收本(大正藏經目錄・昭和勘同錄・南條錄補正索

施護)

引何れも菩提流志譯とみたのは錯誤であらう)

藏、聖、迦葉品といふ大乘經

Skt. Ārya Kāśyapa-parivarta-n.m.s.

Tib. hphags-pa bod-srun-gi lehu.....

譯者 Jinanitra, Silendrabodhi; Ye-ges-sde

九〇〇首盧迦、二卷。

この本は先に詳述した如く本來寶積經なる名を有し、Sikṣāsamuccaya, Mahāyānasūtrāṅkīra 等

にも Ratnakūṭa の名を以て引用せられてあるものだが、現存梵本は末尾の數葉佚失の爲その名を明かにし難いのは残念である。西藏本は上記の如く迦葉品と稱し晋代失譯摩訶衍寶嚴經に一名大迦葉品と傳へるものに合致する。至元録がこれらの漢譯本に對して蕃本闕といつてをるの不思議だ。施護譯に對同し、次に寶積所收本次に晋代失譯本に合し、支識譯には最も遠い。

第四四

漢、寶梁聚會 單本(釋道龔)

藏、聖、寶聚 二卷、大乘經

Skt. Ārya Ratnarāsi-n.m.s.

Tib. hphags-pa rin-po-chehi phui-po.....

譯者 Surendrabodhi; Ye-ges-sde

六七〇首盧迦、二卷、七品。

此經には中亞發見の梵本斷簡あり、Manuscript remains of Buddhist Literature found in Eastern Turkestan pp. 116-121 に Thomas 氏が認定發表してをられるが、もとより斷簡中には經題は現はれてゐない。西藏本はよく道龔譯に對同する北京版及び伯林寫本は四四、四五はたま〜逆置されてをる。併し尾題下の番號は正しく、北京版目錄の順序も正しい。

第四五

漢、無盡慧菩薩會 單本(流志)

譯者 Surendrabodhi; Ye-ge-sde

藏、聖、無盡慧所問といふ大乘經

七〇〇首盧迦。

Skt. Ārya Akṣayamati-paripicchā-n.m.s.

この經は漢譯に於ても西藏譯に於ても各々その

Tib. hphags-pa blo-gros-mi-zad-pas shus-pa.....

般若部中に出づる文殊般若と全然同一のものを

譯者 Surendrabodhi; Ye-ge-sde ナルタン版は

再録してをる。至元録が實積所收本に對して阿

更に Dharmatāśīla を加へる。

喇亞曼殊室利哺怛乞室怛囉孤拏尾喻訶拏麻麻訶

二〇〇首盧迦。

衍拏蘇怛囉と梵題を與へたのは、當に Ārya

第四六

Mañjuśrī-buddhākṣetra-guṇa-vyūha-nāma-mahāy-

漢、文殊說般若會 單本(曼陀羅仙)

ana-sūtra と還元すべきもので、これは第十五、

藏、聖、般若波羅蜜七百頌といふ大乘經

文殊師利授記會、即ち不空譯名でいへば大聖文

Skt. Ārya Saptaśatikā-nāma-prajñāpāramitā-

殊師利菩薩佛刹功德莊嚴經の梵名であつて、彼

mahāyāna-sūtra.

處には至元録者が蕃本闕といつて來たものであ

Tib. hphags-pa ges-rab-kyi pha-rol-tu phyin-pa

る。思ふに至元録者が對勘登錄の際圖らずも誤

bdun-brgya-pa.....尾題は hjam-dpal-g-yis shus-

pahi lepu ཡ ཏ ལ འ འ

第四七

つたものであらう。

漢、寶髻菩薩會 單本(竺法護)

藏、聖、寶髻所問といふ大乘經

Sk't. Arya Ratnacūḍa-paripicchā-n. m. s.

Tib. lphags-pa gtsug-nar-in-p-cches shus-pa.....

譯者 Dharmakīrti 本版は Kamalaśīla を加ふ。

九〇〇首盧迦、三卷。

第四八

漢、勝鬘夫人會 二本(求那跋陀羅、流志)

藏、聖、吉祥鬘天女獅子吼といふ大乘經

Sk't. Ārya Śimālā-devī-siṅhanāda-n. m. s.

Tib. lphags-pa lha-mo dpal-lphren-gi sen-gehi

sg'ra.....

譯者 Jinanitra, Suren trabodhi; Ye-ces-sde 但

し北京版は失名。

六〇〇首盧迦、二卷。

流志譯に對して至元錄が阿喇亞尾喻訶八哩巴哩

赤と梵題を出してをるが、これは還元すれば、

Arya vyūha paripicchā となつて此會の梵名と

は思はれない。次の第四九會に對して至元錄は

蕃本闕といひ従つて梵題を舉げてをらない。そ

うで南條博士は考へて This seems to be a wrong

reading of the title of Vyāsa-paripicchā, i. e.

that of the following work. といつてをられる

のは或は正しい推想であらう。

第四九

漢、廣博仙人會 二本(般若流支、流志)

藏、聖、廣博仙人所問といふ大乘經

Sk't. Ārya (R-si-) vyāsa-paripicchā-n. m. s.

Tib. lphags-pa dran-stroi rgyas-pas shus-pa.....

譯者 Jinanitra, Dānaśīla; Ye-ces-sde

六〇〇首廬迦、二卷。

漢譯兩本とも至元錄には前述の如く蕃本闕といつてある。寶積所收の流志譯は宋元明三本は經

文未盡であるが、麗本によれば開元戊辰年に智昇が般若流支譯の舊經の文を以て約二十行の文を補つてをる。

五

西藏譯大寶積經現存状態は凡そ上記の如くであつて、このまゝを無條件に承認すれば殊に北京版の記事のみを見るときは、西藏大寶積經は大寶積經と稱する十萬品の大本梵典から譯出したものである。それは流志勘編の漢譯大寶積經と殆ど同じく四十九會(品)から成立してゐたものゝ如くに思はれる。果してさうであらうか。

予はこゝに推想を多分に含む故、いさゝか斷言を憚るものではあるが、大體の結論を述べるならば、恐らく西藏本の 大寶積經にもこの形通りの梵語原典があつたのではなく、各會が或程度迄各別に獨立的に譯出せられてゐたものが、或時期に(少くとも至元錄以後か)恐らく西藏一切經の編集者が漢譯大寶積經をみて彼に倣つて一大寶積經に編成し更に不足の分はこの時か、猶その後かに漢譯から重翻して、遂に現状の漢譯と殆ど一致するものとなつたのであらうと思ふのである。以下この考に至る資料を雜然ではあるが列舉してみよう。

(一)北京版は四十九會皆いかにもその譯出原典が梵本であつたかの如く梵語題名を並舉し、その

譯記にも支那本からといふ様なことは一つもいつてをらないが、これは明らかに後世、惡意にではなくとも、始終を調へる爲にその中の數會に就ては梵題を考へ定め、支那譯重翻の記事を省いたものである。だから現にナルタン版をみるに七・二三・一四・二〇・四〇の五會には梵題なく、その中、七・二三・四〇の三經には明かに chosgrub (法成) が支那本から譯出したと記述してをる。猶漢譯からといふ傳はないが、第一一會(至元錄にも、西藏三版にも梵題あれどその名何れも一致せず、猶北) 第一四會(ナル版梵題なし至元錄審本) 第一七會(至元錄、西藏三版皆梵題あり) 第二〇會(ナルタン版梵題なし、至元錄審本闕、北) の如きは本文を比檢するに恐らく漢譯からの重翻であらうと思はれ。かくの如く確かに漢譯重翻のものを多く含有し、その他の各會も譯人は必ずしも常に同一人ではない所からみても四十九會を具備した梵語原典が斷じてあつたのではないと信する。四十九會になつたのは必ずや流志譯編の大本をみながらであらう。

(二) 大寶積經の總題目としてかゝげられた Ārya Ratnakūṭa-dharmaparyāya śatasāhśrika grantha 聖、寶積法門十萬章といふ中 dharmaparyāya は甘殊爾中他にその例がないではないが、經題としては稍異數に屬する、又 grantha も 西藏譯は leṅ (品) としてをるが leṅ は普通 parivarta であつて、これも異例である。かくてこの總題も、かゝる總題のある梵典があつたのでなく大寶積經編成後考定附加したのでなからうか。

(三)各會の終に「大寶積經中何々品と稱する第何會終る」といふ記事が、北京版は大抵は、何々品 *lehū* 第何終ると番號のみであるが一三・一四・二〇の三會には第何會 *Indus-pa* といふ字を用ゐてをる。而してナルタン版をみれば一・三・五・六・八・九・一〇・二二・二三・三九の十會を除いて餘の三十九會は皆第何會と *Indus-pa* の字を用ゐてをる。而るにこの *Indus-pa* は集會の義で菩提流志が用ゐた會の字によく吻合するのである。もし *lehu* ならば梵の *parivarta* で不思議はないが *Indus-pa* は還元すれば *samnipata* となるだらうがこれが今のやうな場合に使用されるのは異例であつて、寧ろ藏の *Indus-pa* は漢の會からきたので、ナルタン版に多くこの字を用ゐたのは漢に倣つて附加したことを示し、北京版に三會しか用ゐないのはそれらがおそく漢譯から重翻され自然に會の字がついたものと見られないだらうか。

(四)至元錄は世間周知の如く漢本に蕃本即ち西藏譯本を對檢してその有無具略を楷定したものであるが、彼にはこの寶積經中一三・一四・一五・二〇・三六・四〇・四三・四九の八會の蕃本は闕だといつてをる。尤も、至元錄の蕃本對勘事業は元の世祖が慶吉祥等に勅してなさしめ、校勘譯語證義諸師の中には西蕃の沙門・西天の粉底答 (*Pandita*) も交つてをり西蕃語・西天語・畏兀兒語にも通じてゐたことは明らかであるが、その成績を見るに、此經は蕃本に比して何品を少くなごとなれば親しく蕃本と品々節々比檢したものゝ如くにも見えるが、それらは極めて少數の例で、實は淨伏の序にもあ

る如く、以_二西蕃大教目錄_一對_二勘東土經藏部帙之有無卷軸之多寡_一したまでのものらしく、それ故に彼録の記事を根本的史料には出来ない。而して今の寶積部についても第一五會の蕃本闕といふが、實は第一五會に對同する經の梵名を四六會に誤掲してをる。又、四九會蕃本闕といふが、前述の如く、四八會の梵名がどうやら四九會のものらしく、かくて却つて四六・四八・兩會の對同梵名が見えないことになる。それはともかく慶吉祥等が見た蕃藏又はその目錄に、これら八會が闕けてゐるか、記されてゐなかつたかごちらかの事實を認めうる。

(五) Mahāvīrutpati 第六十五章に多くの經典名が列ねてある。Mahāvīrutpati は九世紀末に西藏にて梵語を藏譯する標準例を集成したものといはれてゐるので、こゝに擧げられた經典名は當時の現存經典の主要なるものを或程度迄網羅したものだらうと思ふ。その中に、今の寶積部の經を探れば、三(Mahāvīrutpati の楠博士校訂本 No. 1355 已下括弧の中皆同) 一一(No. 1330) 一五(No. 1381) 一六(No. 1333) 一八(No. 1361) 一九(No. 1396) 二六(No. 1393) 二八(No. 1407) 三七(No. 1394) 四五(No. 1400) 四六(No. 1391) 四七(No. 1363) 四九(No. 1392) の諸會經及び Ratnakūṭīh (No. 1364) がある。現存西藏寶積第四十三會は Kāśyapaparivarta と題して Ratnakūṭīh の名は表面に出てをらぬが、最初に述べた如くこの會はもと寶積經と呼ばれ、西藏本も經の末にこの大寶積正法を供養せよといふ文句があり、釋論にも經を寶積と呼んでをるから、今の Mahāvīrutpati の Ratnakūṭīh も大經のこゝでなく

四三會のことであらう。それは他の寶積内の經名と相並んで出てをることからも證據づけられようしてみるに Mahāvūṭ pati には合計十四會の名が各々獨立的に出てをり、その他の各經はこの書編纂の頃にはまだ譯出されてゐなかつたか、或は周ねく知られてはゐなかつたのでなからうかと思はれる。

(六)次に西藏の經錄を訪ねみるに、

ブトンリンポチェ Bu-ston rin-po-che は一切經を佛說 bkah と論著 bstan-ichos に分ち、佛說を二分して經 ndo と咒 snags とし、經を初輪中輪後輪とする。その後輪 (hkhor-lo tha-ma) の部中に寶積十萬品中として第二五會を脱するのみで他の四十八經の名を舉げてをる。(尤もその列擧の順序には漢譯とも現存甘殊爾とも稍殊なる處がある) そして他の經には漢譯重翻のものには其旨記してをるが、寶積部のものには何も特記してをらない。(Pag Sam Jon Zan p. 412)

ダンカルマ目錄は大乗經部中般若部方等部の次に大寶積法門十萬品に屬するもの四十九品ありとして第四十六會を脱するのみで他の四十八經名とその首盧迦數、卷數を列記してある。(北京版丹殊爾經疏部 cho 函 fols. 353b-355a)

ナルタン版附屬目錄は「聖寶積經六函に收輯せるもの印度では十萬品ある中この西藏では四十九品翻譯せり」といつて各經名を列擧する中第二十七會を脱してをる。(河口氏刊 pp. 30-41)

北京版附屬目錄は七・一・二〇の三會を脱し、三九會に誤つて二六會名を再掲し、四一會の經名は脱してそこへ集要四十種經 *Indus-pa bsi-bou-pa* といふ目をあげてをる。これはかつて拙稿如來大藏經目錄に就て(宗教研究 新七ノ一)の中に言及せる如く次前の第四十淨信童女會の尾題の最後の句で第四十會といふことなのである。それを誤つて經題の如く記されたものであるのだ。

以上西藏諸經錄は、掲出に杜撰な誤があつても結局は何れも四十九會の大寶積經を承認してをるもののみである。現在のナルタン、デリゲ、北京、クンブンの各版は何れも實際に四十九會具備してをるのだから、刻藏目錄は先づ論外としてプトンの録もダンカルマの録も、少くとも四十八會、正しくはやはり四十九會を録載してをるのは、いさゝか研究上あつけないものではあるが、この二書の史的價值如何を予は明かにしないので今はありのままの報告に止めておかう。

因に *Sarat Chandra Das* の藏英字典 *dkon-mchog brisegs-pa 'SkA. Ratnakūta* の下には「佛陀の名稱と屬性に關する梵典、百章より成りその中四十九章は西藏語に翻譯されたが、その四十九章中西藏に現存するは僅かに六章のみ、梵典の全部は闍那崛多によりて 369-18 A.D. に支那譯せられた」と記し特異な説を傳へてをるが、*Chandra Das* は如何なる根據によつたものか知らないが、今思ふにこの記事は頗る混亂錯謬を來したものであるまいか、即ち、「百章より成る」といつたのは、かの本文を示す十萬品といふ十萬か百千であるからその千を落して而もその百を實數とみたのであらう

西藏に現存するもの六章のみといふは甘殊爾の大寶積經が何れの版でも六函(帙)になつてゐるの誤つたもの、闍那崛多云云は錯記のみ。

(七)かくて西藏傳から嚴密に何れの時に何會譯されてをり最後に四十九會完成したのは何時かといふことは決定し得なかつたけれども、西藏傳からしても四十九會完備の梵典が存在したといふ確かな證據は一つもなく、猶又四十九でなくても何十會かが一束して梵本に於てすでに寶積經と呼ばれてゐた時代があるといふ證據も發見し得なかつた。予の見たる經錄何れも大部の大寶積經を登錄せるは、すべて四十九會大成後の記錄であると思はれない。

予はあまりにもくだくだしい記述を今や終らうと思ふ。大寶積經四十九會の形における大本梵本存在の資料はやはり漢譯史傳(その價值は別に考究を要する)より以上に確實性をもつものは見出せない。四十九會を同一寶積經の各會として部屬せしめた理由その配列順序の問題等に至つては予の不才なる未だ何等の研究端緒をも發見し得ない。しかし恐らく學的研究の對象としては寶積經もしくは寶積部といふものは解散せしめてしかるべきものであらう。